

第2回丹波篠山市総合教育会議 議事録

1. 日 時

令和元年10月23日(水) 14時00分～15時51分

2. 場 所

市役所本庁舎3階 301会議室

3. 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	前川 修哉
教育委員	酒井 克典
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造
教育委員	井上 友香

4. 事務局出席者

	部長	稲山 悟
教育総務課	課長	小林 康弘
学 事 課	課長	森本 康幸
学校教育課	課長	尾松 直樹
西部学校給食センター	所長	斉藤 昭
社会教育課	課長	柏戸 隆弘
文化財課	課長	村上 由樹
中央図書館	館長	樋口 裕昭
こども未来課	課長補佐	山本 毅
教育総務課	係長	田中 真紀子

5. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	1 開会
酒井市長	2 協議事項
	(1) 教育大綱の策定について
	本日の協議事項は、教育大綱の策定である。8月2日の第1回総合教育会議で、「令和元年度から4年度、丹波篠山市が取り組む教育施策の基本方針を示した教育大綱は、基本的にこれまでの内容を踏襲するが、現状に合わせて加筆等をして策定する」としたところである。
	本日は、私から教育委員に新教育大綱（案）を示し、内容について教育委員と意見交換をしていきたい。
	配布している資料が加筆等をした新教育大綱（案）である。
	まず、変更点について事務局から説明する。
事務局（小林課長）	全体的なことと言うと、1点目は、市名変更に伴い、「篠山」を「丹波篠山」に変更した。2点目は、言葉の使い方を精査した。資料の中で、赤字で表記しているのを確認願いたい。
	なお、「丹波篠山市教育大綱（案）」の内容は、それぞれ「第3期丹波篠山市教育振興基本計画（案）」との連動についても配慮し、内容も全て反映している。
酒井市長	では、順番に確認をしていく。
	まず、「1. ふるさと教育 1-（1）丹波篠山ほど良いところはない…日本遺産のまち、農の都」について意見を求める。
中村委員	1-（1）の最終段落、「丹波篠山」ではなく「篠山」のままで2か所残っている部分がある。
小林課長 前川教育長	資料記載誤りで、正しくは「丹波篠山」である。
	「ふるさと教育」は教育のメインになると思う。ふるさとから学び、学ぶことにより大事になる。丹波篠山が良いからこそ持続可能を目指す。この考え方はかつての教育から大きくシフトしなければと感じる部分である。「丹波篠山ほど良いところはない」の、「ほど」はどこかと比較をしているのではなく、「誇りを持っているのだ」という意味と理解したい。「ほど」という言葉がどう理解されるのかなとは感じる。
酒井委員	総論として「ふるさと教育」は大事なことと考える。ただし、これをどう感じさせていくかが大切である。「ふるさと教育」は、子どもたちに「教える」のではなく、先人たちが培ってきたことに対して、どう感じ、積極的に新たにどう発展させていくかということをやっていくことだと考える。そして、これが子どもたちに求められる学力だと思う。
	「丹波篠山学」とは一体どのようなものと考えているか。子どもたちが心からふるさと丹波篠山を誇れるよう、更に良い地域にしていこうという気持ちとなる内容に、担当課で整理する必要がある。
酒井市長	「ふるさと教育」とは、行政、学校や地域などみんなですていけばいいと考えている。一つの担当課で担うものではない。

酒井委員	学校教育課長に聞きたいのは、「ふるさと教育」を学校教育の中でどう位置付けて取り組むのか、体系付けて学校に伝えてほしい。
酒井市長	来年度4月に教育研究所が開設となるので、そこでも取り組んで行けばいいと考える。
井上委員	上から3行目、「教える教育」が「実感できる教育」に変更になったのは、素晴らしいことだと感じる。ただ、最終段落中「丹波篠山市の良いところをたくさん教えます」は、「教えます」のままでいいのかなと考える。 また、最終段落中「人々とのふれあい」の中に、「トライやる」という言葉を入れてはどうか。丹波篠山の人の温かさを感じ、こういうところで働きたいという感想も聞いた。人の温かさを伝えるのは良いことではないか。
尾松課長	「トライやる」と限定するのではなく、「社会体験活動」という文言で入れるのも良いかと思う。
酒井委員	つまりは総合学習のことではないか。
酒井市長	「また、地域のお祭りなど行事への参加、人々とのふれあい…（略）」と変更する。 それから、「教えます」でいいのかということについてであるが、私はこれでいいのでは考える。
前川教育長	1－（1）1、2段落の主体は、「たくさんあります」、「行います」であるのに、3段落目は、大人側が提供するような文言で書かれている。「たくさん教えます」となると、いろんな方が寄ってきて子どもたちに教えるようなイメージがある。
酒井委員	これは、「教える」ではない。 今求められる教育は、子どもたちが学びの中から自身で気づいていくことである。表面的に大人が子どもに教えたつもりでも定着しない。子どもたちは、いろんな人との出会いによりそれを感じとっていくわけである。
酒井市長	それはわかるが、これは教育大綱である。子どもに感じさせるように教えればよいと考える。
酒井委員	「感じさせる」という内容を文字にするのは難しい。だからこの文言については十分考えていく必要があるということを書いてきた。
酒井市長	大人が教えて、これを子どもが感じるのでもいいのではないか。教える場を作っていくということによいと考える。
酒井委員	ここがポイントである。ここが、「教える」と「どう学びをしていけばこれができるか」というのは、教育現場の方には違うと考える。
酒井市長	ではどのような文言にすればいいのか。ここの「教える」は、「場を提供する」の意味で、上から見ているという意味ではない。
垣内委員	市長が言われるよう、「教える場を提供します」や、「気付く場を提供します」でいいのではないか。
酒井市長	「教える」ではいけないのか。
酒井委員	私と市長と教育長では、「教える」の捉え方が異なると考える。新しい

<p>酒井市長 酒井委員</p>	<p>学力観のなかで難しいことであるが、子どもたちに教えていくことから、子どもたちには真の力は備わっていない。</p> <p>では提案をしてほしい。</p> <p>私は学校教育課長の意見が聞きたい。</p> <p>我々はレイマンである。教育に関わる文言、指導要領も含めて全て、細部に渡ってまで教育委員は理解できていない。方向性はわかったとしても細部については課長に教えてもらいたい。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>では相応しい文言を提案してほしい。子どもたちに教えないと気付かないのではないか。以前は「ふるさと教育」自体をしてこなかった。それをしていこうという意味で記載している。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>1段落目、「実感できる教育が必要です」と言い切っている。ここで改行して、次は事実を述べる文章として、「丹波篠山市は日本遺産のまちであり…（略）」とする。改行して、だからそこで「ふるさと丹波篠山の良さを学ぶ機会をつくり…（略）…行います。」とする。改行して、最後に「また、地域のお祭り…（略）…丹波篠山市の良いところも実感させます。」ではどうか。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>それでよい。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>「1－(2)丹波篠山の食をいかした学校教育…地元食材活用率日本一」について意見を求める。</p> <p>今、丹波篠山市の学校給食センターは、「全国学校給食甲子園」の全国大会に向けて順調に予選を通過し、1,447団体のうちの24団体に入っている。</p>
<p>齋藤所長 中村委員</p>	<p>10月25日の4次予選の結果待ちである。</p> <p>「全国学校給食甲子園」の部分について、削除となっているがこれはなぜか。</p>
<p>小林課長 酒井市長</p>	<p>今までは目標として書いてきたが、概ね達成できているので削除した。</p> <p>「『全国学校給食甲子園』への出場をめざします」の部分は、今回全国大会出場を果たせば削除、出場できなければ目標として残す。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>「地元食材活用率」の計算方法は、重量百分率にするのか、品目ベースにするのかということである。愛媛県今治市が、重量計算で半分以上の地場野菜を使ったという実践報告があった。今治市に取材すると、農都政策やいろんなどころと連携してやっていた。本市も「日本一」と書いてあるのだから目指したいと思う。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>揃えられないものがあるので、重量ベースはなかなか難しい。目標としてやっていく。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>「1－(3)自然とふれあう教育…学校にヒーローをつくろう」について意見を求める。</p> <p>山が手入れされていなかったり、川がコンクリートで固められたために、</p>

<p>尾松課長 酒井市長 酒井委員</p>	<p>自然とふれあう機会が乏しくなっただけではなく、加えて機会が少ないから関心がないことが課題と感じている。</p>
<p>垣内委員</p>	<p>「ヒーロー」は、各学校園でつくってあると思うが、自然とふれあう教育に結びついているのか。</p> <p>本日午前中、城北畑小学校の学校訪問に行ったが、城北畑小のヒーローは何であったか。</p> <p>お苗菊とクリンソウである。</p> <p>自然とふれあう教育に結びつくには、もう一息というところではないか。</p> <p>「ふるさと教育」に繋がるものであるが、子どもたちの総合的な学習の中で、「ねらい」を持って取り組んでいるのか。ヒーローを守っていくとか、地域に発信するとか、日々の目標を設定し、子どもの学びに繋がるようなことをやっていかないと力はつかないと考える。活動が定着することを願う。これについても教育研究所で整理してほしい。地域に発信して素敵な大人に出会わせて行ってほしい。その結果、丹波篠山市はいいところだと感じることに繋がる。</p> <p>私はここに「木育」の項目の追加提案をしたい。</p> <p>(資料配付)</p> <p>資料に記載のとおり、追加内容としては、例えば、「すべての子がヒノキの香りを嗅ぎ分けられる独自の木育を目指す」である。</p> <p>全校生がヒノキの学習機を使っている。今四年生まで完了して、もう数年したら全ての児童がヒノキの機を使うことができる環境が作られている。つまりは、全員がヒノキの香を知っているということになる。</p> <p>「木育」は様々な意味で捉えられているが、丹波篠山市独自の定義で捉え直し、自然環境を最大限に活かした子育てを行おうというようなことを書けたらと思っている。</p> <p>一般的に「木育」は、身近な森との関わりから、知育・徳育・体育の三つの側面を効果的に育むとされていたり、「木材の効能を最大限活かして人の育ちを支援する活動」と定義されるなど、様々な解釈がある。</p> <p>そこで、丹波篠山市独自の木育観を提示して教育大綱に加えてはどうかと思っている。</p> <p>丹波篠山独自の木育とは、幼児期からどんぐりマーケットという事業もやっているが、どんぐりを拾って森と関わり、地元産材を使った施設や玩具に触れ、ヒノキの学習機を6年間使用することで、全国探しても「全児童がヒノキの香りを嗅ぎ分けられる」自治体はないと思うので、それは特徴になると考える。</p> <p>森との関わりは自然科学への知識だけでなく生きてゆく知恵を与え(知)、木材製品の使用は、壊れ易さや汚れ易さからモノを大切に使うことや忍耐を養い(徳)、山野での活動は木登りなどの身体能力(体)を育むということで、大綱に盛り込んでみてはと考える。どこの項目に追加するかは別途協議が必要と思うが、こういうことを「ふるさと教育」に入れては</p>

酒井市長 酒井委員	<p>と考える。</p> <p>これを「ふるさと教育」に入れるという垣内委員の提案についてどうか。</p> <p>素晴らしい提案と感じる。「木育」は大事にしていかなければならないし、今の時代は、「今・金・私」と言われるところから、丹波篠山の木育は、「次世代・公」と、人間の生き方の根源を指すものである。子どもたちが将来にわたって、今より次の代が良くなるようにと考えられるのは素晴らしいことである。また、香りが嗅げる体験は稀なことなので、そんなことについて、丹波篠山市の児童が英語スピーチで海外でアピールができたなら、文化の面から見ても素晴らしいことだと思う。</p>
酒井市長	<p>1－(3)に追加するより、(4)を設け別立てにしてみてもいいのではないか。</p>
垣内委員 酒井市長	<p>文言について推敲は必要である。「知・徳・体」を育てることを目指す。</p> <p>自然とふれあう教育で、自然体験を通じて、命の大切さ、思いやりの心、生きる力を育む、ふるさとを大切にする気持ちを高めるということであるが、木育については、自ら森と関わる、どんぐり拾い、玩具、学習機などの木から、何を指すのか。</p>
垣内委員	<p>「木と森」というキーワードかと思う。「知・徳・体」を育てることを目指す。</p>
酒井市長	<p>ヒノキが嗅げる、机を使うことによって、子どもたちのどういったことを目指すのか。</p>
前川教育長	<p>今、趣旨を聞いて、山や工房、例えば5月の里山の日を思い浮かべると、次の担い手の問題にも繋がる。人に与える影響も大きいですが、匂いを嗅ぎ分けるといふのであれば、5の「丹波篠山ならではの文化を育む」の方に位置づけたほうがいいのではないか。5に入れる方が、「里山の日」であったり、教育大綱としての展開がしやすいのではと感じるがどうか。</p> <p>5の「丹波篠山ならではの文化を育む」の方がいいのではないかと意見についてどうか。</p>
垣内委員 酒井委員	<p>それでいいと考える。最終的には子どもたちの育ちに繋がると考える。</p> <p>ヒノキだけではなく、色々な木の香りを嗅ぎ分けられたらいいと思う。</p> <p>丹波篠山らしくて大事にしたいと思う。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>「ヒノキの香りを嗅ぎ分けられる」の文言は必要か。</p> <p>せっかくヒノキの机を小学校で導入している。そんなことができる自治体はないと思う。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>子どもは嗅ぎ分けられているのか。</p> <p>6年間ヒノキの机を使うので、他の木の匂いとは違うことに気付くと思う。</p>
中村委員 酒井市長	<p>「ヒノキ」の文言を入れたままでいいと考える。</p> <p>垣内委員の提案は、5に追加する。</p> <p>「木材の効能」は何か。「木育」ではどのように定義されているのか。</p> <p>わかりやすい言葉で書きたい。</p>

前川教育長	木のおもちゃを園で導入しているが、おもちゃには木の温もりがある、人肌に近いので、子どもはそれを使ってよく遊ぶ、それが一つの効能である。それから、匂いが人を落ち着かせる働きがある。
垣内委員	「あたま・こころ・からだ」を育てるのに役立つ。平仮名で書いてもいいと思う。それを育てるのに木が適している。ほかでも育てることはできるが、木や森を使うとより良く育つと言われている。
稲山部長	「木育とは、新しい言葉・概念であり、北海道で初めて示された。木を子どもの頃から身近に使っていくことを通じて、人と森や、人との関わりを主體的に考えられる豊かな心を育てたいという思いを、「木育」という言葉に込めた。」と書かれている。
酒井市長	「知育・徳育・体育」はちょっと言葉が難しい。 旧大綱の「ヒーロー」のオヤニラミの写真は以前から使われているものなので、今回は新しい写真を事務局は選ぶように。 また、各学校園でどういうヒーローを作って、どう取り組み、どう活かしているかの調査もするように。
尾松課長	教育大綱の進捗状況を毎年提出している。
酒井市長	「2. 地域に開かれた学校、2-（1）コミュニティ・スクール・・・市民みんなで学校づくり」について意見を求める。
前川教育長	今は、「開かれた学校」ではなく、「地域とともにある学校」の方向で動いている。
酒井委員	今までは、単に学校に「関わる」ということだったのが、次の段階として共に考えていこうという「参画」に変更されたのだと理解する。
前川教育長	各学校それぞれ内容は異なるが事業を実施している。学校運営協議会委員の研修しており、その際に委員が情報交換をし始めている。
酒井市長	学校に何か問題が発生した場合、課題をみんなで考えたりできているのか。
尾松課長	最低、学期に1回以上は学校運営協議会委員に集まっていただき、状況を報告する会議を設けている。そこで情報共有をしている。
酒井委員	プライバシーの問題であったり、守秘義務のこともあったりと整理をしなければいけない部分もあり、学校現場として、すぐに情報を出すということは難しかったが、開示できる情報は出していると私は聞いている。全国的にも様々な問題があるが、速やかに地域の方とともに解決できるようなコミュニティスクールにしたい。
酒井市長	かつて学校が荒れていると言われた時、学校の状況を地域の誰も知らず、学校で問題が発生したら、教師が責められてばかりであった。今は地域も一緒に解決に取り組んでいるということか。
前川教育長	地域も当事者意識になってきており、できることは自分たちでやっぺいこうという意識になってきた。学校からどの情報を出すのかは難しい面もあるが、数字データなど一般化したものは出し、そこから共に考えていこ

酒井市長	うとなっている。
酒井市長	教師がどれだけそういう意識を持っているかも大事である。学校の情報を学校以外には出さないという考えを改めないとコミュニティスクールの機能も十分働かないと思う。
酒井委員	学校はきちんと情報を出し、その情報を学校運営協議会委員がどう捉えているかである。自分たちは、当事者であり、責任もあり、守秘義務もあるということを理解して取り組んでもらえば、より良い活動となる。みんなが良識をもって取り組めばいいと思う。
前川教育長	2-（1）の見出し、「市民みんなが学校づくり」は、「市民みんなが学校づくり」のほうが、意味がより強くなるので変更してはどうか。
酒井市長	そのように変更する。
酒井市長	「2-（2）高齢者とともに学ぶ…おじいちゃん、おばあちゃんも学校へ」について意見を求める。
中村委員	小学校児童が、高齢者と交流することによって、挨拶が交わせたり、見守り隊の人員が増えた。大変良い取組と考える。 中学生は、時間的に難しいのかとは思いますが、もう少し高齢者との関わりができればと感じる。
酒井委員	第2段落中「ともに学習発表をする機会を～」の部分で「発表」が削除となっていることについて、「発表」はハードルが高いが、共に学習したり、取り組んだことを、共に「発表」することで、子どもにも高齢者にも、共に良い成長に繋がるのではないか。第2段落中「ともに学習発表をする機会を～」の部分はそのまま残してほしい。 いろんな発表の仕方があると思うが、子どもにとっては良い学びになると考える。
酒井市長	発表した方が良いと思うので、「発表」は残す。
中村委員	篠山小学校のお城ガイドは、児童と高齢者が共に実施しており、大変良い取組だと思う。
前川教育長	私も、高齢者大学の写真とアンケートを確認した。子どもは、習字で高齢者に褒めてもらって嬉しかったと、高齢者は、共に料理をして嬉しかった等と書いており、相互に効果があるとみえた。ただ、時間の制約があったり、高齢者が学校に赴く必要は出てくる。
酒井委員	こういう活動が、丹波篠山の良さを理解し、子どもの成長を伸ばしていく機会と考える。
酒井市長	「3. 学力の確立と向上、3-（1）読み、書き、計算、あのねちゃん…一人も見捨てない」について意見を求める。
酒井市長	1行目、「学力を高める」を「学力を育む」として（案）を出したが、やはり「育む」のではなく「高める」のままの方がいいのではと思う。
尾松課長	「学力」という言葉を使わなくなってきており、「確かな学力」、「健

酒井市長	<p>やかな体」と「豊かな心」の3つを、総合的に捉えて「育成すべき資質能力」と新学習指導要領で言われている。「学力」という言葉を使うのであれば、「高める」のままでもいいかなとも思う。</p> <p>丹波篠山市は、学力が低いと言われるから旧教育大綱に「学力を高める」と書いた。低いと言われるから、「学力・生活習慣状況調査」を取り入れて、継続してやってきて高まってきたのではないか。学力で評価をする人がある以上、丹波篠山市は大丈夫だと言わなければいけないと思う。</p>
酒井委員	<p>市長が言われることはよくわかる。30年代に「村を捨てる学力・村を育てる学力」という問題があった。しかし、我々が今から作らなければならないのは、丹波篠山という地域を支える学力である。その学力は、点を採れたらいい、覚えたらいいという学力ではなく、感じ方・思い方・感じ方、生き方、こういうことが学力であるということを提示して、丹波篠山を育てる学力を子どもたちにつけていかなければいけないと思う。そのことについて理解していただきたい。</p>
酒井市長	<p>理解している。ただ、市民や議会から、で「学力が低い」と言われたら、高いところを目指していこうと言わざるを得ない。私は、学力が高い人が立派だと思っているわけではない。</p>
酒井委員 酒井市長 前川教育長	<p>地域を捨てるような学力は必要ない。</p> <p>それは、1. ふるさと教育でうたっている。</p> <p>学力はもう一歩というところにあるが、それに向けて取り組んでいる。測定値を重要視している人もいるので、測定値結果を出さないといけなと思う。出さないから全部が認められないようになっている気がする。</p>
酒井市長 中村委員	<p>「あのねちゃん」という言葉はどうであったか。</p> <p>コミュニケーション能力のことを表すために旧大綱に提案した経過がある。当時は、担任との交換日記のようなものがあり、その名称が「あのねちゃん」であった。別の言い方になっても構わない。</p>
酒井委員	<p>これは象徴的なことで書いただけで、家族でも友達でも、協調の部分でコミュニケーション能力をつけていかなければならないという内容である。こういうことを別の言い方でもう一度文章を考えてもらえたらと思う。「あのねちゃん」では、少し限定されるような気もする。</p>
前川教育長	<p>コミュニケーション能力の一つに、「言語を書く」という力がこれによって育まれたというのがある。丹波篠山市は「書く力」に課題があるということも調査でわかってきている。自分の思いを、言葉によって表現をするものとして、「あのねちゃん」は書きやすかったと思う。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>「一人も見捨てない」はどうか。</p> <p>これは教育長が非常に大事にされていることであると思う。少し調べたら、言葉は難しくなるが、今は「公平に個別最適化された学び」、つまり一人ひとりに合ったことをやっていこう、誰一人も取り残すことなく、子どもの力を最大限に伸ばす教育をしますよということではないかと思う。このようなことも踏まえて、時代に合ったものに変更するのもいいかもと</p>

酒井市長 井上委員	<p>思う。</p> <p>この部分についてはもう少し言葉を考えてみる。</p> <p>教育研修所が設置されるので、全員が成長するような道筋をここに入れてしまうのもいいのではないか。</p>
酒井市長	<p>「見捨てる」が相応しくないのであれば、みんなの個々の力を伸ばすという意味のことを入れる。</p>
酒井市長 井上委員	<p>「3－（2）市内3高等学校との連携・・・丹波篠山で高校まで安心」について意見を求める。</p> <p>丹波篠山市ホームページ上から、丹波篠山市内の高校にリンクできるようにするのは無理なのか。</p>
小林課長	<p>市ホームページの内、「丹波篠山市内の小学校・中学校・特別支援学校・こども園（公立）」のページで、各学校園ホームページにリンクを貼っているが、以前井上委員から提案いただき、すぐに市内高等学校ホームページへのリンクも貼った。</p>
酒井市長	<p>検索がしにくい、わかりにくい分もある様子。今、市ホームページ全体を見直し中なので、教育委員会事務局は、総務課情報政策係と調整して改善するように。</p>
酒井市長	<p>「4．スポーツに親しむ」について意見を求める。</p> <p>特にないようなので（案）のとおりとする。</p>
酒井市長	<p>「5．丹波篠山ならではの文化を育む」について意見を求める。</p> <p>ここに、先ほど垣内委員から提案のあった「木育」を追加し、5を、5－（1）に、木育を5－（2）として整理をする。</p> <p>5－（1）の文章は抽象的な感じがする。</p> <p>旧大綱策定時に垣内委員が、古い丹波篠山らしい文化だけではなく、新しい市民活動の支援も必要と言われた。</p>
垣内委員	<p>新しい市民活動が出てきているので、その支援をしていこうと当時意見を出した。もちろん古い文化も素晴らしいと考える。</p>
酒井市長	<p>市内には50人程度新しく移り住んでいる芸術家がいるようなので、活動支援が大事である。</p>
酒井委員	<p>文化を享受できる、いいなって言える部分を作っていないと、一方的に行政が推していても、市民がどこまで文化を応援しているのかなと思う。もっと文化にふれあう、文化の良さに気付く「人育て」が大事であると感じる。</p>
前川教育長	<p>古い文化と新たな文化を同時進行していかなければならない。新たな市民によって丹波篠山で創造していくような文化活動と、もう一つは、文化財課が進めようとしている、歴史文化をもう一度見直そうとするものである。丹波篠山市にはおよそ5,000の資産がある。これらを改めて検証</p>

酒井委員	<p>することによって、丹波篠山市住民の誇りになればと思う。教育委員会の機能の中で、非常に幅広く文化活動や文化団体の支援は公民館とともにやっている。また、市民プラザでは新たに芸術家の方が活動され、そういう方を教育委員会としても支援していかなければならない。端的に言えないが、「育む」は、両面あるのだと思う。今は、丹波篠山市がどう文化を育むということをやっていくのかを考える過渡期かと思う。芸術家の方は、「丹波篠山の風土が良い」と言われている。ここで創作活動をするのが非常に良い、気に入っているとされる。</p> <p>文化はまちの生き残りをかけたものであるから大事にしなければいけない。</p>
垣内委員	<p>教育長が言われたように両面の課題がある。新たな芸術家が丹波篠山市で何かをしたいと思う背景には、歴史文化が元々ここにあり、文化財保護がしっかりされているからだということもあると思う。相乗効果があると考える。</p>
酒井市長	<p>稲山部長、ユネスコ創造都市も踏まえて、5－（１）全体について、今出た意見をまとめるような文章を再考するようにしてほしい。</p>
稲山部長	<p>わかりました。</p>
酒井市長	<p>文化芸術は地域資源である。丹波篠山市は歴史文化構想もあるが、立派な計画を策定しても、市民に浸透するようにどう情報を発信していくかを大事にしないと効果がない。文化についてだけではなく、全ての事業について、情報発信力も非常に大切である。</p>
酒井市長	<p>「6. あいさつと生活習慣、6－（１）あいさつ運動」について意見を求める。</p> <p>市でも一生懸命取り組んでいる。地域によって差はあると思う。</p> <p>意見ないので、（案）のとおりとする。</p>
酒井市長	<p>「6－（２）早寝・早起き・朝ごはん」について意見を求める。</p>
井上委員	<p>基本生活習慣がきちんと書かれている。市民がどれだけ意識をしてどう取り組んでいるかが大事である。丹波篠山市は、特に「眠育」に力をいれているという情報発信も必要かなと思う。</p> <p>最近子どもの「寝顔写真」は続けているのか。</p>
前川教育長	<p>実施園は少なくなってきた。今田保育園では継続して取り組んでいる。</p>
酒井市長	<p>他に意見がないようなので、（案）のとおりとする。</p>
酒井委員	<p>一通り検討をしたが、他に意見はないか。</p> <p>「子育て支援」について、市も力を入れているということを追加してほしい。内容は市長にお任せする。</p>
酒井市長	<p>では、2に「子育て支援」のことを入れ、以降の番号をずらしていく。</p>
酒井委員	<p>「学校林」の復活を望む。「木育」のなかで、子どもたちと一緒に、1</p>

酒井市長	<p>00年、200年、300年先の木を作るというのもまた検討してほしい。</p> <p>様々な意見に感謝する。新教育大綱については、本日の協議事項をふまえ（案）を整理し、年内には私が決定し、公表をする予定である。</p> <p>これで、令和元年度第2回総合教育会議を終了する。</p>
------	---